

中日新聞 平成30年12月7日掲載記事 市表敬訪問

中 日 新 聞

2018年(平成30年)12月7日(金曜日)

可 茂 18

## 全国舞台で柿渋PR

### 社会貢献大会 加茂農林高・林さん抱負

柿渋のPRに取り組み加茂農林高校食品科学科三年の林克之さん(もが)が、中学生の社会貢献活動をたたえる「ボランティア・スピリットアワード」で県内で唯

一、東海・北陸ブロック賞を受賞した。二十四日に東京である全国表彰式で活動を発表し、上位賞を目指す。

表彰式は米国系のプルデンシャル生命などが主催し、応募した全国約千六百の個人・団体から各ブロック賞に選ばれた四十組が参加。最高賞の文部科学大臣賞のほか、参加者同士の投票により、来年五月の全米表彰式に派遣される「米国ボランティア親善大使」二組が選ばれる。

林さんは市特産の干し柿「堂上蜂屋柿」の振興策を研究する中で、着物離れとともに柿渋の需要が減り、今では県内に生産農家が二戸しかないことを知った。日本の伝統文化である柿渋を次世代へ残そうと、昨年

から柿渋を使ったポーチや羽織、ネクタイなどの商品開発に挑戦。市内の障害者支援施設と連携して柿渋入りの廃油せっけんも作り出し、市民向けの柿渋染め体験会なども開いてきた。

四日に市役所を訪ねた林さんは「柿渋が広まるように思いを伝えたい。目指すは親善大使」と意気込みを語った。伊藤誠一市長は「前例がないことに取り組みうと思った気持ちが素晴らしい。健闘を祈ります」と激励した。(平井一敏)



全国表彰式での発表に向けて意気込む林さん(左から二人目) 美濃加茂市役所



平成30年12月4日

福祉フェア(10月27日)での柿渋廃油石鹸の販売の様子。地域への貢献度全国表彰

